



氏名	原田 洋一郎 / HARADA yoichiro	職名	教授	学位	博士 (文学)
所属	一般科目 / 荒川キャンパス	E-mail	Harada(at)metro-cit.ac.jp		
シーズ キーワード	地域変化, 鉱山史, 野外調査, 古文書資料				

相談可能なテーマ	講座・講演会のテーマ例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形図・絵図資料の見方</li> <li>・近世の古文書資料の読解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図・絵図から地域を読む (一般向け)</li> <li>・古文書入門講座 (一般向け)</li> </ul>

研究・教育内容の紹介

<近世日本の鉱山開発と地域の形成・変容に関する研究>

戦国期～江戸初期にかけて、日本では佐渡や生野のような金銀の大鉱山が盛んに開発され、大規模な鉱山町が成立し、その周辺地域に大きな経済効果をもたらされたことがよく知られています。その後、西欧の科学的鉱業技術を導入した近代的な鉱山開発が行われるようになるまでの間は、日本の鉱山業の衰退期とされてきましたが、江戸時代の中後期にも規模は小さいながらも全国各地で数多くの鉱山開発が進められていました。江戸中期頃には、好況の鉱山を求めて各地を移動する技術者を雇い入れることが可能になっており、鉱物資源の需要が高まった時期には、近隣の都市の富商や地元の有力農家などが開発資本を提供し、地域の住民がそれぞれの生業に応じて、鉱山に必要とされる物資や食料の生産、供給によって金銭収入を得たり、鉱山の単純労働に従事したりすることによって開発が行われました。

技術・資本・地域の力が組み合わせられることによって、貿易銅の確保、商品経済の発展に伴って増大した金属資源の需要を満たすという、その時代の課題が解決されてきたことを、この研究からは知ることができます。具体的な事実をもとに地域を構造的に捉えることを通じて、多面的な視点から、環境、エネルギーをはじめ、現代の東京が直面する課題に応える発想を導くことに貢献できると考えています。



利用可能な機器/施設	所属学会/協会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本地理学会</li> <li>・人文地理学会</li> <li>・歴史地理学会</li> <li>・日本地理教育学会</li> <li>・地理空間学会</li> </ul>

その他参考事項

時代、地域を異にする事例に学び、現代の私たちの生活文化や産業を相対的に理解することは、今後の望ましいあり方を考える上で得るところが大きいと考え、研究成果を教育に活用しています。

「文化」「社会」についての関心を、本校の学生のみでなく一般の人々にも育てていただき、豊かな人生、社会の糧を手にしていただくための手がかりを提供するべく研究・教育にあたっています。